

新型コロナウイルス感染症流行と救急車利用

発表者連絡先：〒796-8502 愛媛県八幡浜市大平 1-638

市立八幡浜総合病院麻酔科・救急科 越智元郎

TEL 0894-22-3211, FAX 0894-24-2563, e-mail: GCA03163@nifty.ne.jp

抄録：新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言下における愛媛県民の救急車利用に関する検討
(日本救急医学会中国四国地方会抄録)

越智元郎¹⁾²⁾、根津賢司¹⁾³⁾、相引眞幸¹⁾⁴⁾

1)愛媛県メディカルコントロール協議会、2)市立八幡浜総合病院麻酔科、3)市立宇和島病院外科、4)HITO 病院院長

【目的と方法】2020年新型コロナウイルス感染が全国で発生した。この間、愛媛県内の救急告示病院では救急車搬入患者数が減少しているとの情報があった。これが県民がコロナ感染症罹患を恐れる余り、本来要請すべき119通報を控えているのか、不必要な119通報を控えた結果救急車の適正利用につながっているのかを検討するために、県内消防本部の2019年(以下、19年)と2020年(以下、20年)3~6月の救急搬送記録を両年で比較した。

【結果】両年の救急搬送数総数は19年20,518人から20年17,931人へと、12.6%減少した。急病患者に限ると、19年12,417人から20年11,055人へと11.0%減少。軽症患者の比率は19年47.4%から20年は44.4%へとやや低下(急病患者だけでは49.9%から47.5%に)。年齢層別の増減率は、10歳未満-40.4%、10~19歳-33.3%、20~69歳-15.1%、70歳以上-7.2%であった。重症度別の増減率は、軽症では-18.1%、中等症-7.7%、重症-8.7%、重篤及び死亡-3.2%であった。

【考察及び結語】愛媛県の救急搬送患者は新型コロナウイルス感染症流行に伴い約13%(急病のみでは15%)の減少をみた。減少率が高かったのは20歳未満及び軽症患者であり、重症及び死亡患者の実数は微減であった。2020年3~6月、愛媛県においては新型コロナウイルス感染症流行に伴い主に軽症傷病者において救急車の利用が控えられたが、それが重篤な傷病者の実数の増加にはつながらなかったとみられる。

愛媛県における新型コロナウイルス感染症流行と救急車利用

越智元郎1)2)、根津賢司1)3)、相引眞幸1)4)

1)愛媛県メディカルコントロール協議会、2)市立八幡浜総合病院麻酔科、3)市立宇和島病院外科、4)HITO病院院長

所属は抄録提出時(2021年1月)



東予地域、愛媛県メディカルコントロール協議会
症例検討会(2021年9月14日)
<http://siyaca.uimn.ac.jp/~CRDNet/f814n.pdf>
(本発表中、QRコードの撮影を歓迎します)

市立八幡浜総合病院 越智です。「新型コロナウイルス感染症流行」と題してお話します。

目的

2020年、新型コロナウイルス感染症患者が全国で発生し、同年4月には緊急事態宣言が発令された。この間、愛媛県内の救急告示病院では救急車搬入患者数が減少しているとの情報があった。これが県民がコロナ感染症罹患を恐れる余り、本来要請するべき119通報を控えているのか、結果的に不必要な119通報を控え、救急車の適正利用につながっているかを検討したい。

目的です。2020年、新型コロナウイルス感染症患者が全国で発生し、同年4月には緊急事態宣言が発令されました。この間、愛媛県内の救急告示病院では救急車搬入患者数が減少しているとの情報がありました。これが、県民がコロナ感染症罹患を恐れる余り、本来要請するべき119通報を控えているのか、結果的に不必要な119通報を控え、救急車の適正利用につながっているかを検討したいと考えました。

方法

愛媛県内各消防本部の2019年3～6月の搬送傷病者数と2020年同期間の同データを比較した。

1. 搬送傷病者数の実数 2. 軽症傷病者の比率

急病、急病以外

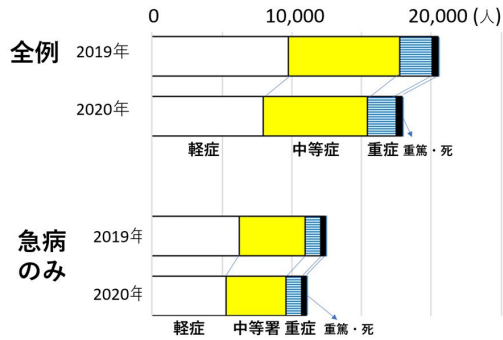
年齢層別(0～9歳、10～19歳、20～69歳、70歳以上)

重症度別(軽症、中等症、重症、重篤・死亡)

消防本部別

方法です。愛媛県内各消防本部の2019年前半の月別搬送傷病者数と本年同期間の月別データを比較しました。一つは搬送傷病者数の実数で、もう一つは軽症傷病者の比率です。

全例および急病のみでの検討、年齢層別、重症度別および消防本部別の検討を行いました。

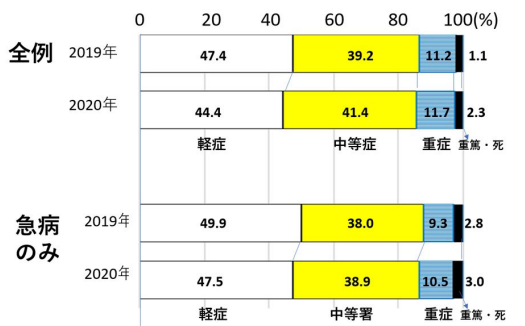


2019年（上）および2020年（下）3～6月の傷病者の重症度別の傷病者数

結果です。

全県の救急搬送数総数は19年20,518人から20年17,931人へと、12.6%減少しました。重症度別には軽症の減少率が最も大きく18.1%、中等症は7.7%、重症は8.7%、重篤・死亡は3.2%減少していました。

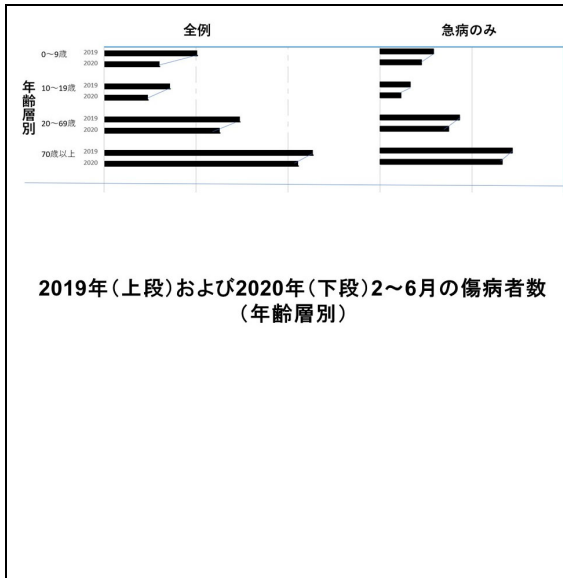
急病のみで比較しますと、19年12,417人から20年11,324人へと、8.8%減少しました。重症度別にはここでも軽症の減少率が最も大きく15.2%、中等症は3.2%、重症は0.7%、重篤・死亡は3.5%の減少にとどまりました。



2019年（上）および2020年（下）3～6月の傷病者の重症度別の傷病者の比率(%)

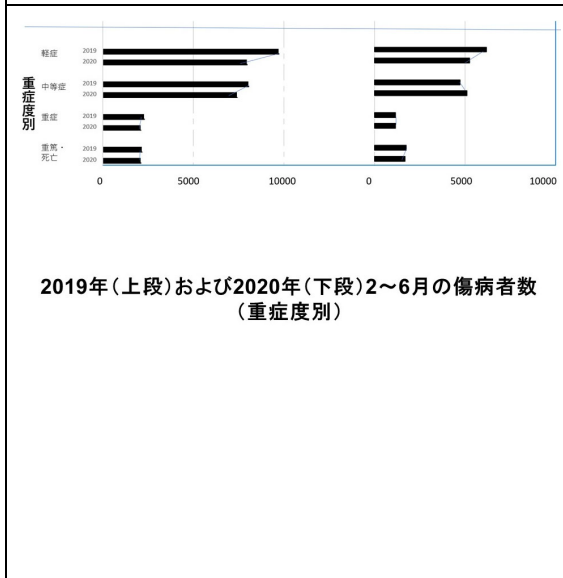
重症度別の傷病者の比率は、軽症傷病者の比率は19年47.4%が20年44.4%に3.0ポイント減少し、中等症は2.2ポイント、重症は0.5ポイント、重篤と死亡は1.2ポイント、それぞれ増加しました。

急病のみで比較しますと、軽症傷病者の比率は19年49.9%が20年47.5%に2.4ポイント減少し、中等症は0.9ポイント、重症は1.2ポイント、重篤と死亡は0.2ポイント、それぞれ増加しました。



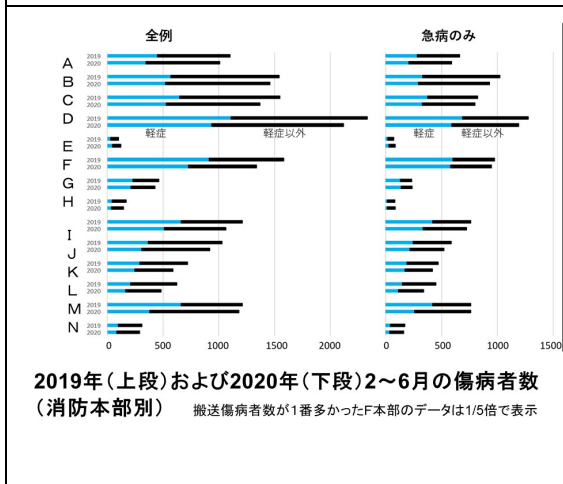
年齢層別には0～9歳の減少率は40.4%で最大、10～19歳は33.3%、20～69歳は15.1%、70歳以上は7.2%で最小でした。

急病のみですと、0～9歳の減少率は22.3%で、10～19歳は30.3%、20～69歳は13.8%、70歳以上は7.4%で最小、10～19歳が最大でした。

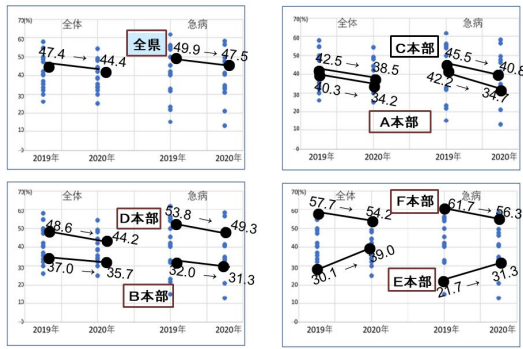


重症度別には軽症の減少率が18.1%で最も大きく、中等症は7.7%、重症は8.7%、重篤・死亡は3.2%でした。

急病のみですと、軽症の減少率が15.2%で最も大きく、中等症は8.9%、重症は0.7%増、重篤・死亡は3.5%でした。

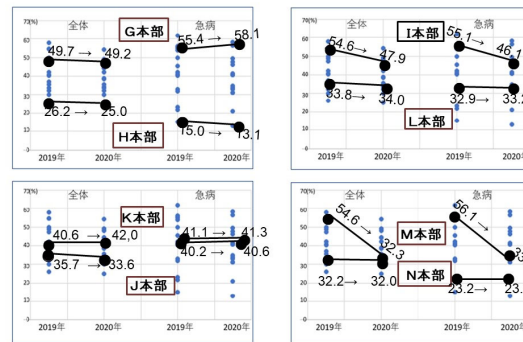


消防本部ごとの2年間の搬送傷病者数の比較です。全例では搬送数の少なかったE消防のみ増加、急病のみでは14消防中11消防で搬送数が減少しました。



軽症傷病者の比率の推移 (消防本部別) 1
左が2019年、右が2020年

消防本部ごとの2年間の軽症傷病者の率の比較です。全体では47.4%から3.0ポイント低下、急病全体では49.9%から2.4ポイント低下しています。搬送数の少なかったE消防のみ軽症傷病者の率が上昇しています。



軽症傷病者の比率の推移 (消防本部別) 2
左が2019年、右が2020年

早期から新型コロナウイルス感染症が出たM消防では軽症傷病者の率が54.6%から22.3ポイントの低下をみました。K消防ではわずかですが、率が上がっていました。

考察

愛媛県の救急搬送患者は新型コロナウイルス感染症流行に伴い約13% (急病のみでは15%)の減少をみた。減少率が大きかったのは20歳未満及び軽症患者であり、重症及び死亡患者の実数は微減であった。2020年3～6月、愛媛県においては新型コロナウイルス感染症流行に伴い主に軽症傷病者において救急車の利用が控えられたが、それが重篤な傷病者の実数の増加にはつながらなかったとみられる。

愛媛県の救急搬送患者は新型コロナウイルス感染症流行に伴い12.6%、急病のみでは8.8%の減少をみました。減少率が大きかったのは20歳未満及び軽症患者であり、重症及び死亡患者の実数は微減でした。2020年3～6月、愛媛県においては新型コロナウイルス感染症流行に伴い主に軽症傷病者において救急車の利用が控えられたが、それが重篤な傷病者の実数の増加にはつながりませんでした。

考察 2 (2年目の調査に向けて)

1. 注目点—昨年同様、救急車利用控えがみられるか？
逆にコロナ感染者増加に伴い、搬送数が増加？
2. 全消防本部から10歳刻みのデータをいただきたい。
(乳幼児、少年、高齢者などの区分で提出された本部も)
3. コロナとは無関係に、軽症傷病者の比率が高い本部があったので、ご検討をお願いしたい。

コロナまん延2年目となる本年も同様の調査を計画をしており、皆様にはご協力をお願いいたします。

1. 注目点としては、昨年同様、救急車利用控えがみられるか？ 逆にコロナ感染者増加に伴い、搬送数が増加しているか？
2. 全消防本部から10歳刻みのデータをいただきたいと思います。
3. コロナとは無関係に軽症傷病者の比率が高い消防本部がありましたので、ご検討をお願い致します。

結語

愛媛県の2020年の新型コロナウイルス感染症流行に伴う、救急搬送の変化について検討した。2021年には第4波とされる感染流行に伴い、消防・医療機関においてはより余裕のない状況となっている。本年の状況についても検討し、再度報告したい。

結語はスライドに示す通りです。

ご静聴有難うございました。